

3. 教育長の報告

(1) 令和2年12月定例市議会 一般質問項目について

(妹尾教育長) 資料により説明

(野田委員) 入試の時の感染対策についての質問があったが、県教委からは何か通知があったのか。

(学校教育課長) 県教委の通知はまだ正式には来ていないが、昨年度と同様の対応となる予定である。発熱等のある生徒は別室受検ができる。インフルエンザ、コロナウイルス感染等で受検できなかった場合は、追試験の日が設定されている。市内中学校で感染者が発生した場合でも、自分が濃厚接触者でなければ受検はできる。会場となる市立高校で感染者が出た場合、生徒の立ち入り禁止期間を土日を含めて3日程度確保する予定であるため、消毒等の必要があっても対応ができると考えている。

(野田委員) 学校給食用の食品購入についての質問があったが、これはどういう意味か。

(学校教育課長) 給食センターで作っているのはおかずのみである。牛乳、パン、米飯は別の業者が配送している。県の学校給食会が取りまとめしており、配送距離に関わらず全県下持続的に低コストで配送できるというメリットがある。福岡市が給食会を通さず、業者から直接購入して大幅にコストを削減できたというような事例が新聞に掲載されており、玉野市でも同様のことができないかという質問である。本市の規模で、独自購入してもコスト削減のメリットがあるかどうかは不明である。県内でも、津山市と新見市などは、給食センターに炊飯設備があるため、米を独自で購入しているような事例はある。

(妹尾教育長) どの程度コストが削減できるのかということや、給食には安定した供給が望まれるためどういうメリットがあるのかなど、他市の状況も見ながら今後検討していくということになる。

(2) 今後の教育の方向性について

(妹尾教育長) 総務文教委員会協議会で、地域懇談会の状況を報告し、義務教育学校設置の検討を始めていくことについて協議した。試行に向けて、地域で丁寧に説明しながら進めていくということになった。

4. 議 事

なし

5. 協 議

(1) 玉野市競技スポーツ振興事業費（激励金）支給事務取扱要項の改正について

- (学校教育課長) 資料により説明
前回会議で市内県立高校にも支給することで了承いただいたところだが、限られた予算の中での対応であるため、市内県立高校に支給することに伴い、市立学校への支給額を減額した。この案について意見をいただきたい。
- (野田委員) 市立高校と県立高校で金額が違うのはどうかと考える。
(学校教育課長) 捉え方によるが、市立高校を優遇した。
(野田委員) 県にはこのような制度はないのか。
(学校教育課長) ない。
- (加藤委員) 以前より減額されているが、予算的に難しいのか。頑張っている生徒に対しての激励なので以前と同じ額を支給してあげたいと思う。
- (学校教育課長) 予算の範囲内という前提があるため、予算がなくなった時点で終了ということであれば可能である。
- (加藤委員) 補正予算を組むことはできないのか。
(学校教育課長) 補正予算は考えていない。部活動で頑張っていることは称賛すべきことではあるが、激励金の目的が何かということである。遠征に行く補助と捉えるのは違うと考えている。教育長から激励の言葉をもらい、新聞にも掲載され、称えられることが大切だと思っている。金額ではないという考えである。
- (妹尾委員) 市が応援してくれていると子どもたちが意識することができる良い機会だと考える。市立学校と市内県立高校との差については、私も同額でよいと考えているが、予算のこともあるため、まずは第一段階として、ということであれば、この金額から始めてもよいかと思う。
- (妹尾教育長) 市立学校と市内県立高校の金額に差をつけることについて、他の委員の意見をいただきたい。
- (加藤委員) 私も差をつけるべきではないと思う。市内県立高校にも多くの玉野市在住の生徒が行っている。
- (太宰委員) 私も差をつけるべきではないと思う。子どもにとっては県立だから、市立だからということでは差をつけるのはかわいそうと思う。できれば同額で激励してあげたい。
- (妹尾教育長) それでは、市立学校と市内県立高校を同額にするということでは修正する。

(2) 玉野市立学校文化・芸術活動等振興事業費（激励金）支給取扱要項の改正について

(学校教育課長) 資料により説明

(妹尾教育長) 先ほどスポーツと同様で文化も市立学校と市内県立高校を同額とすることでよいか。

(各委員) 意義なし。

6. その他

(1) 令和3年度 始業日等について

(学校教育課長) 資料により説明

現時点の予定である。

今年度の卒業式、来年度の入学式については、コロナ禍ということで、来賓等の招待はしない形とさせていただく予定である。また、これまで土曜授業日を年間3日間実施するよう学校に求めていたが、次年度からは学校の裁量に任せることとした。夏休みに授業日を設定することについても学校の裁量とすることとした。土曜日授業設定は、授業時数の確保ということが前提であったが、今後は授業時数の確保についても各学校が工夫をしながら実施することとなる。

(妹尾委員) 土曜授業日に保護者の授業参観があることが多いと思うが、学校の判断で実施するということか。

(学校教育課長) 保護者のことを考えると実施する学校は多いと考える。

(野田委員) 教育委員会は来賓ではないため、卒業式で祝辞を述べることは必要だと考えるがどうか。

(学校教育課長) 事務局で検討した結果である。他市も同様の対応である。

(野田委員) 昨年度は一斉休校期間での実施であったが、今回はそうではない。

(学校教育課長) コロナ禍ということで外部の人を入れないということである。

(妹尾委員) 式に出席して直接メッセージを伝えたい気持ちはあるが、昨年度の卒業式は来賓等の祝辞がなかった分、アットホームな式になって良かったという声も聞いた。当事者の学校の先生や子どもたちにとっては、先生と保護者と在校生がいるという形があれば良いのではないかと今回のことで色々と考えさせられた。所管する立場で祝辞メッセージを送付することは必要だと考

- えている。
- (学校教育課長) 入学式に出席する市もあるが、本市は出席していない。運動会にも出席する市もある。教育委員会が出席する行事というのを考えていく必要はある。卒業式は、厳粛なムードで行うものである。所管する教育委員会が出席し、挨拶をすることは必要と考えるが、今回は、コロナ禍ということで、出席者削減、時間短縮を学校に求めているため、控えるという考え方である。
- (太宰委員) 所管ということでの必要性は理解しているが、コロナ禍の今はやめておいた方がよいと考える。
- (加藤委員) 教育委員は他の来賓とは立場が違うということを改めて考えさせられた。祝辞がないとしても出席する方がよいのではないかと思う。
- (妹尾教育長) 今後、ずっと出席しないということではない。今年度の卒業式についてはということでご理解いただきたい。
- (野田委員) 今までは市長や議長が出席しない学校は、教頭がメッセージを代読していたが、それはどうなるか。
- (学校教育課長) 時間短縮のため、祝辞は掲示している。教育委員会のメッセージについては、卒業生の人数分印刷して配布することは可能である。
- (妹尾委員) 来賓とは立場が違い、本来は先生方にお礼を言う立場である。前日に行って先生方にお礼を言うとか、一人ずつメッセージを配布した方が伝わると思う。
- (学校教育課長) 教育委員会は、学校にとっては来賓以上に厳粛に迎えられる。これについては今後も大事にしていきたい。行事への出席については今後協議いただくことも考えている。今年度については、参列なしで、教育委員会からのメッセージを卒業生に配布することで替えさせてもらいたい。
- (妹尾教育長) 改めて、式に教育委員会、教育委員が参列することの意義について考えてもらいたい。

(2) 令和3年度 幼稚園・保育園・認定こども園の入園申込状況について

- (就学前教育課長) 資料により説明
- (妹尾委員) 待機児童は出ないのか。
- (就学前教育課長) 現時点ではわからない。年度末時点での保育士の退職などの異動状況による。

(3) 令和3年 年間スケジュールについて

(教育総務課長) 資料により説明

(4) 令和3年1月/2月 月間行事予定について

(教育総務課長) 資料により説明

(5) 旧玉幼稚園の活用について

(就学前教育課長) 12月定例会市議会で「サンライフ玉野」が3月31日をもって用途廃止することが議決されたところである。サンライフ玉野にはシルバー人材センターの事務所が入居しており、事務所の移転先を探していた。センターから旧玉幼稚園を事務所として使用したい旨の申し出があった。施設を有効に活用してもらえるならばということで申し出を受けた。今後、いずれかのタイミングで施設を長寿介護課へ移管することとなる。

(6) 成人式について

(社会教育課長) 資料により説明

新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を取って実施する予定である。今後、感染の拡大状況によっては内容の変更や、やむを得ず中止する場合もある。

(妹尾委員) 中止になった場合は、オンライン上で恩師のビデオレターと市長のメッセージや実行委員の言葉などを発信して欲しい。

(社会教育課長) 中止になった場合には、YouTubeでの発信などの代替案についても検討している。

(7) 玉野商工高校の入学希望者数について

(野田委員) 先日、中学生の県内公立高校への進学希望者数が発表された。玉野商工高校は0.5倍くらいであった。これについて、商工高校の反応はどうであったか。

(学校教育課長) 校長は、深刻にとらえている。全体的に見ると、私立への進学希望者が増加している。近隣の高校に偏っていることもなく、子どもの数が減っていることと私立への希望が増加していることが要因と考えている。

(野田委員) あの結果を見ると中学生や保護者への印象が良くないと思う。

(妹尾教育長) 定員数については、今後も協議していく必要はある。

(学校教育課長) 来年度実施の入試から全国募集を実施していく予定である。

(加藤委員) 就職状況はどうであるか。
(学校教育課長) まだ集約できていないため、後日報告する。

(8) 義務教育プロジェクトチーム(仮称)について

(野田委員) 第2回総合教育会議で、市長から義務教育学校の検討プロジェクトチームを作ってはどうかと提案があったが、来年度から、試行するとしたら、どのようなスケジュールで進めていくのか。
(学校教育課長) 新聞報道を受けて、関係校の校長には説明して回った。反対はなかった。胸上小学校にも説明した。胸上小学校は協力校という立場での実施を想定していることを説明している。胸上小校長からは、保護者からの問い合わせもあるので、長期的な計画を示してもらいたいとのことであった。今後策定する予定であると説明している。他の学校の校長からも反応があり、ぜひ進めていくべきだという意見が多かった。今後、学校現場の判断で取り組んでいくということもあると考えている。中学校区一貫教育校園であるため、今でも校長判断で実施することは問題ない。

(野田委員) 東兎中学校区や荘内中学校区以外の学校でも義務教育学校を進めていくべきだという反応が多かったということか。

(学校教育課長) 長期的に考えて玉野市全体として学校が変わっていくようにすべきという意見である。実施したくても通学距離の問題で出来ないところがほとんどであるが、希望があれば取り組んでもらうよう働きかけてみたい。関係校の校長に伝えていることは、年明けにまずはPTA役員に説明し、その後、保護者説明会を設けたいと考えている。出来れば3月議会の総務文教委員会で報告し、9月以降少しずつ試行していきたいと考えている。

(野田委員) プロジェクトチームはいつから動くのか。

(妹尾教育長) 年度内にどの程度進めていくかということもあるため、現段階では検討中である。

